

第523回 IBC 番組審議会

1. 開催日時 平成 19 年 9 月 27 日 (木)
2. 開催場所 デジタルセンター D ホール
3. 委員の出席
委員数 11 名
出席委員数 7 名
出席委員の氏名
副委員長 宮澤 徳雄
委 員 大村友貴美 河村 泰信
熊谷志衣子 小松 務
澤口たまみ 矢佐 俊幸

欠席委員の氏名 伊藤 史典 工藤 和彦
小林 英男 田代 高章

会社側出席者
川島 敬司 常務取締役
菅野 秀樹 取締役テレビ営業局長
川上 隆 ラジオセンター長
鎌田 英樹 テレビ編成局長
堀米道太郎 制作部ディレクター

事務局
馬場由紀子 番組審議会事務局長
小笠原 勉 番組審議会事務局次長
4. 議 題 IBC 特集『忘るまじ 未帰還兵の無念』

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- ・タイトルを見た時点で戦争の話であることがわかり、今の時代に必要な番組であろうことは予想していたが、見始めてグイグイ引きこまれていきました。岩淵さんの執念、現地の人たちとの緊迫したやり取りや表情は、ノンフィクションでないと出せないし、映像でないと表現できないものだと思います。
- ・岩手県に岩淵さんのような日本兵の遺骨収集をライフワークにしている方がいることを初めて知ることができた。見た人に平和を訴える、戦争の醜さを訴える岩淵さんの信念には頭が下がる思いがした。
- ・映像を通して戦争は終わっていないことが強く感じられた。このような良質な、問題提起をするような番組は、ぜひ子どもたちにも見せてやりたい。今の子どもたちは環境問題や戦争のことにも関心があります。再放送をお願いしたい。
- ・岩淵さんの執念にも似たすごいものが冒頭から伝わってきて、5分も経たないうちに戦争はいけないという思いが伝わる勢いのある番組でした。タイトルを見たときから、後世に残したい番組に違いないと思っていたので、期待を裏切らない番組でした。
- ・遺骨収集は、本来国が行うべきだと思うが、なぜ、昭和50年で打ち切ってしまったのか、その理由などがあれば見る人たちにとって考えが深まったのではないかと。

<社側>

- ・私とカメラマンの2人、およそ10日間の日程でインドネシア共和国で取材しています。機材は小型のハンディサイズのハイビジョンカメラで、ハイビジョンで放送しています。国内での取材が述べ10日程度、合わせて20日間程度の取材を持ちまして1時間の番組ができています。再放送の予定ですが、直近ですと10月中に一度再放送をする予定です。
- ・現在は、予算編成をしての国の年度事業としては行っていませんが、どこかで遺骨が見つかったという情報があれば、収集団をその都度編成して行くという作業になっています。
- ・岩淵さん曰く、厚生労働省の最重要課題には今のところなり得ないので、有志で「未帰還兵がまだまだいます」と搜索基金を呼びかける民間主導のキャンペーンの方が効果があるのではないかと。遺骨収集戦後処理の部分について、骨の収集に力を注ぐべきだというのが、まだまだコンセンサスが取れていない状況なので難しさがあるということでした。